

めざせ！ 苗場山麓ジオパーク

Vol.

7

振興協議会だより

〔発行日〕平成26年5月23日

〔発行〕めざせ！苗場山麓ジオパーク推進室

日本ジオパーク 公開プレゼンテーション2014

4月30日に行われた公開プレゼンテーションに向け、振興協議会は一致団結して、その内容について向き合いました。与えられた13分の時間の壁。13分という短い時間の中で、いかに悠久の時間で育まれた苗場山麓の素晴らしさを伝えるかの勝負でした。

まず、何を伝えるのか？ いや、伝えるべき内容は何か？ 喧々譁々そのものでした。

津南町役場の大会議室や委員会室、“なじょもん”の体験室やさらに栄村振興公社でと、多くの仲間が真剣に映像を見て、言葉一句一句を聞き、13分の時を数える。語句の重なりや語尾の発音、写真のインパクトや大きさ、秒単位の画面の切り替え速度、文字表現と幾度となく指摘を頂き、それに挫けず素直に直す広報部会の面々。

13分の内、1分が上村憲司会長の挨拶、残り12分が佐藤信之学芸員の持ち時間。1分の時間をいかに整理して挨拶するか！上村会長の言魂の威力に懇願した1分でした。

佐藤学芸員は、発表目次を作り、章と節単位での秒コマ配置を作り、原稿を組み込みました。15分から14分、原稿や写真をまず削りました。14分から13分へは、なかなか削ることができず、大胆な中身の変更を行いました。すなわち、原稿の組み換えと書き換えが発生し、ゼロからのスタートでした。しかし、彼は挫けませんでした。とうとう13分30秒まで到達しましたが、その30秒の壁は高く厚いものでした。職員の一人が、後ろで残り時間を紙に書き提示するアイディアを実行してくれました。その紙を見ながら話すことで、13分の壁を乗り切ることができました。



さて、公開プレゼンテーション本番は、横浜にあるパシフィコ横浜という大きな会場、そして、地球惑星会議なる世界大会の中で行われました。その会場は、1,000人が入る大規模な講堂でした。当日、700人程度の全国から集まった各地の応援団がステージの1点を注目する緊迫した雰囲気でした。我々応援団は、総勢36人。雪をイメージした「めざせ！苗場山麓ジオパーク」が背中にプリントされた白いジャンパーを羽織り、“苗場山麓ここにあり”とアピールしました。

世界ジオパーク申請プレゼンテーションの2地域に続き、いよいよ、私たちの公開プレゼンテーションです。めざせ！苗場山麓ジオパークの幟を掲げ、15人の仲間がステージに立ち、いよいよ13分の戦いが始まりました。上村会長はさすがで、1分で素晴らしい言魂を会場いっぱいに散りばめ、佐藤学芸員に魂のバトンをリレーしてくれました。佐藤学芸員は、広い会場を見つめ、堂々と語り始めました。

その内容は、世界の中での苗場山麓の位置と特徴、その特徴である多雪環境の形成とその背景にある自然環境、そして、その自然環境で育まれた縄文文化からの雪国文化、その素晴らしい環境の認識と保全学習の重要性、さらには中期から長期計画の提示、最後に地域の元気なお年寄りが快適な汗を流し、笑い、子供たちに郷土の素晴らしさと生きる知恵と技術を、保全活動を通して伝える教育の場が苗場山麓であること、そしてそれを骨子として新しい地域づくりを始めるというものでした。

たかが13分、されど13分、この13分のプレゼンテーションをどう乗り越えるかという高いハードルに向かい、振興協議会の多くの仲間が一つになった瞬間がありました。それは苗場山麓という地域が一つになり、未来に羽ばたく瞬間でもありました。

自画自賛ではありますが、「1年半の準備でよくここまで来たな」という感想を持つと共に上村会長のバトンを受け、堂々と語る佐藤学芸員の言魂に深く感動し、帰路につきました。



さて、公開プレゼンテーションという一つのハードルを越えました。これからは景観に配慮した最低限の整備事業を進める必要があります。看板の色や形、そして高さなどを十分配慮した作業が必要です。ガイド養成講座は、6回が終わり、いよいよ野外での現地研修が始まります。また、ジオパークを通してどのような地域づくりを模索したらいいのかという設問に対して、様々な分野の方々を招いて話を聞き、ディスカッションする“なじもん塾”も動き出しています。

審査は、7月前後に2日から3日に亘る現地審査があり、合否は8月末に決定します。地域の方々がジオパークをどう捉え、どのように考えているのかという隠密の審査もあると言われています。それは地域の方々が一緒になって、地域を愛し、地域を守り、未来ある子どもたちと向き合い育てるという一番大切な要諦がジオパークにあるからです。

まだまだ険しい道のりであり、いくつものハードルがあるジオパーク登録への道です。地域の皆様の温かいご支援とご協力が一番大切です。

ジオパーク推進室では、どんなに小さな集まりでも結構です。声をかけて頂ければ出向き、ジオパークとは何か、どんな役割がある事業なのか、苗場山麓にはどんな宝があるかなどを分かり易く説明いたします。さらに野外に出て、その素晴らしい自然環境や文化についても共に歩き学んでいきたいと考えています。気軽にジオパーク推進室にご連絡ください（電話：765－2299）。

ジオパーク推進室：佐藤 雅一

COLUMN

大地の息吹と
現代を結ぶ

断層の話 ～地震との関係～

近年、中越地震・中越沖地震・長野県北部地震など地震が多く発生しています。また、宮野原地震、新潟地震、善光寺地震など記録を遡ると過去にも地震が多く起きていることが分かります。では、津南町・栄村付近では、どうして地震が起きるのでしょうか？その1つの理由として、大地の持ち上がる力（隆起）があると考えられます。その動いた結果「断層」となります。「断層」は、大地が動く事で大地がずれたことを示す痕跡です。この断層が信濃川沿いに走っており、また大地が動く（＝地震が起こる）ことが想定されます。

東日本大震災以降、雪国ならではの内陸型の災害に対する備えや防災・減災教育の重要性がさげばれています。

私たちが住む地域の地質環境を学び、これからどのように暮らしていくか、備えをしていくか、考える必要があります。



長野県北部地震の被害の様子

めざせ！ 苗場山麓ジオパークのジオサイト

57 の見どころを随時紹介していきます

見玉不動尊と仁王門



所在地 津南町見玉 **種別** 文化

山号は「金玉山正宝院」と言い、本山は比叡山延暦寺、天台宗のお寺ですが、平家の守護神である不動明王が祀られていることから通称「見玉不動尊」と言われています。

この不動尊は、約830年前、壇ノ浦の戦いに敗れた平清盛の家臣宮本清左エ門が安置したと言われています。昔から眼病にご利益があるとされ、遠方からも参拝者が訪れます。

仁王門に立つ仁王像には、たくさんの紙が貼り付いています。これは、沢で濡らした紙を仁王の体で自分の病やケガを治したい場所にあたるところ目がけて投げつけ、貼り付くと良くなると言われているからです。

江戸時代には、鈴木牧之が滞在し、当時の様子を書き残しています。その記録によると、街道から山門までが遠く、当時は、街道が中津川沿いにあったことを示しています。本堂の姿は、現在までその様子を残しています。

現在は、不動明王をはじめとする五大明王が安置され、信仰の対象となっています。

旧鳥甲牧場（湖跡）



所在地 栄村五宝木 **種別** 地質

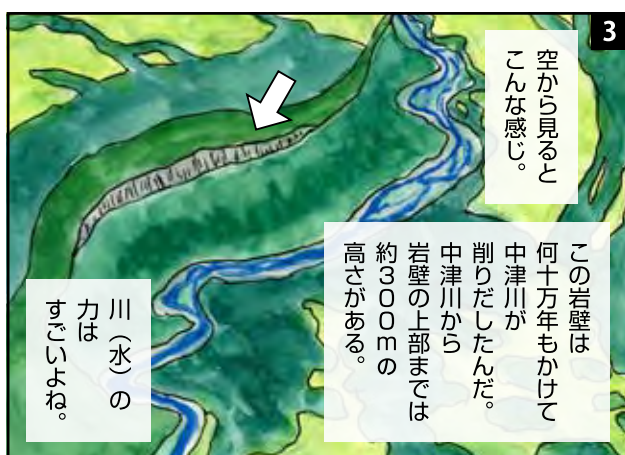
旧鳥甲牧場周辺にはシルト層を主体とする五宝木湖成層と呼ばれる湖成層が分布します。時代は不明ですが、苗場火山噴出物、鳥甲火山噴出物の堆積と関連して形成されたと考えられます。五宝木から旧鳥甲牧場に至る県道沿いに分布し、およそ30mの層厚があります。

魚沼層群の前子無斑晶質安山岩層や屈岨層、高山沢・鬼沢火砕流堆積物を不整合に覆い、苗場山第4期噴出物に覆われています。

旧鳥甲牧場がある標高1,100m前後の平坦面は、スランプ構造の発達した白色細粒火山灰とシルト層の互層となっています。

スランプ構造とは、平行に重なった地層のうち一層準だけ、地層の構造が著しく乱されている構造を言います。このような構造は、地層がまだ軟らかいうちに变形したことを示しています。スランプ構造の多くは湖底地すべりによって形成されたものと考えられています。（産技術総合研究所・地質調査総合センター）

※地質学の学説は複数あり、現在も研究が続いています。そして、本地域の調査研究がこれからも行われる必要があります。



ぜひ見に来てください！



子どもたちやボランティアの方々と一緒に、津南町役場前に、めざせ！苗場山麓ジオパークのシート看板を設置しました。

苗場山麓のジオサイト（見どころ）6ヶ所の美しい写真シートです。ぜひ足をとめ、町内外のたくさんの皆さんに見ていただければ幸いです。

めざせ！苗場山麓ジオパークのホームページを開設しました

苗場山麓の魅力を発信するホームページを開設しました。

美しい写真とともにジオサイトの解説や振興協議会、ジオパークガイド養成講座などの活動の様子をご覧ください。未完成の部分もありますが、パンフレットでは伝えきれない情報が満載です。

「苗場山麓ジオパーク」で検索してみてください。



今後のスケジュール

平成 26 年 5 月 21 日	なじょもん塾 第 4 回 講師：高橋五輪夫氏（湯沢町議会議員／雪国の宿高半専務）
5 月 28 日	日本ジオパーク研修会・総会
29 日	
6 月 3 日	振興協議会総会
6 月 14 日	ジオパークガイド養成講座 第 8 回